

三年生 国語 学習プリント

三年 組 名前

はじめ



言葉を見つめる 『俳句の可能性』 『俳句を味わう』

教科書 P 66 ～ 70

筆者のものの見方や感じ方、表現のしかたなどを読み味わい、俳句の世界に親しむ。

① 教科書 P 66 からの「俳句の可能性」の本文を読み、俳句とは何かを理解するとともに、次の俳句の特徴を示す文の空欄（ ）を埋めよう。

① 俳句が散文や報道記事などと違うのは、省略されている部分を、読む人の自由な解釈で補って、（ ）できるといふ点である。

② 俳句は、五・七・五という（ ）と、季節を表す言葉（ ）を用いて表現し、このような約束を（ ）という。

③ 「や」など俳句の中で句の切れ目に使う言葉を（ ）という。

④ 俳句で用いる季節の言葉をまとめた本を（ ）という。

⑤ 自由な音律の俳句を（ ）季節を表す言葉のない俳句を（ ）とよんでいる。

② 次に示す四つの俳句を「五・七・五」のリズムを意識しながら声に出して、三回読んでみよう。（三回読んだら□にチェック）

□ P 66 飯田龍太の「どの子」の句

□ P 67 正岡子規の「いくたびも」の句

□ P 67 友岡子郷の「跳箱の」の句

□ P 68 加藤楸邨の「たんぽぽの」の句

